

社会科学習指導案

海田町立海田小学校

- 1 日 時 平成30年11月7日(水) 第6校時
- 2 学 年 第3学年1組 男子13名 女子11名 計24名
- 3 単元名 わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと「工場ではたらく人びとの仕事」
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、以下に示している小学校学習指導要領社会科(現行)の3学年及び4学年の内容を受けて設定した。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。

また、平成29年告示小学校学習指導要領の第3学年の内容には、以下のように示されている。

(2) 地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。

本単元では、身近な地域の生産について調べ、表現する活動を通して、生産の仕事の特色や、他地域とのかかわり、生産の仕事に携わる人々の努力や工夫を具体的に考えることをねらいとしている。

ここでは、にしき堂を取り上げる。にしき堂で生産されているもみじ饅頭は広島県の名産品として全国でも良く知られており、給食にも出るほど児童にとってなじみの深いものである。海田町内にあるにしき堂の製餡工場では、海田町北部に位置する日浦山の湧き水を使って餡を作っており、児童の住んでいる地域とつながりの深い企業である。そして、この餡を用いて、広島市東区光町のにしき堂本社工場では、一日に10万個のもみじまんじゅうを生産している。本社工場は、広島駅の北側にあり、できたてのもみじ饅頭を県内各地の販売店に配送している。機械を使って効率よく生産することや、衛生管理を徹底すること、何年もかけて新商品を開発していることなど、工場働く人々の工夫や、努力についても学ぶことができる。したがってこの本社工場に見学に行き、作

業工程や作る人の動きを見たり、インタビューをしたりして地域に見られる生産や販売の仕事について調べることを通して、工場で働く人々の努力や工夫が自分たちの生活につながっていることに気付かせることができる教材だと考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、一学期の「わたしたちの住んでいるところ」という単元で、本校のある海田町には、海沿いを中心に多くの工場があることを学んでいる。しかし、工場でどのようなものがどのように作られ、自分たちの生活とどのようにかかわりがあるのかということについては、ほとんど知らない。学級児童のアンケートでは、工場は、ものを作る場所だということは、なんとなく知っているものの、身の回りの工業製品にはどんなものがあるか、海田町には、どんな工場があるか、ということについては、理解が充分とは言えないと答えた児童が大多数であった。また、工場に対して、「うるさいところ」「けむりが多い」などの負のイメージをもっている児童も3名おり、自分たちの生活を支えていることに対する気付きをもつことができていないことが明らかになった。

前単元では、「店ではたらく人々の仕事」について学習してきている。店で働いている人々は、お客さんに喜んでもらい、たくさん商品を買ってもらうために、買い物がしやすくなるよう様々な工夫をしていることを学習し、自分たちの生活と地域の販売に関する仕事を結び付けて考えることができた。

与えられた課題に対しては真面目に取り組み、追究することができるが、自ら疑問をもち、予想を立てたり、資料から読み取ったことをもとに考えたりすることには課題があり、思考力が充分とは言えない。

(3) 指導観

指導に当たっては、工場で働く人々の工夫を自分たちの生活と関連付け、自分事として社会的事象をとらえ、主体的に考えることができるように以下の3つの点に留意して学習を進めていきたい。

一つ目は、見通しをもたせることである。「海田小まんじゅう工場」のアイデアを考えさせ、新しい工場を作るとしたら、どんな工場にするかを考えさせながら学習を進めていく。その際、1日に10万個ももみじ饅頭を作っている、にしき堂の工場の製造過程を予想させ、考えていく中で出てきた疑問を生かし、視点を設定する。①工程（作る順番、働く人の役割分担、機械の様子）②工夫や努力（安全・衛生・商品開発など気をつけていること）③立地、④原料、⑤出荷先などの視点をもとに、具体的に考えさせることで、工場で働く人々の工夫や努力について自分事としてとらえさせたい。調べたい問いや視点を全員で考え、単元の学習計画を立てることで見通しを共有することができるようにする。

二つ目は、協働して学習に取り組むことである。グループで「海田小まんじゅう工場」のアイデアを考えていく中で、多様な考え方に会い、自分たちの目的や学習内容に合う最善解を考えることで学びを深めさせたい。また、生産に携わる人々は、「何のために」「どんな」工夫をしているのか、「どのようなことに」気をつけているのか、その理由を考えさせ、協働を通して深めていく。

そのために、「すると」「なぜ」「たとえば」などのつなぎ言葉やキーワードをカードで提示するようにする。特に「すると」どうなるかを意識して話し合わせることで、「何のための」工夫なのかを考え、工場の人々の工夫が自分たちの生活につながっていることを意識させる。

三つ目は、振り返りを生かして学習活動を進めていくことである。学び方と学習内容の二つの観点で振り返りを行わせるようにする。学び方については、主体性やコミュニケーション能力を意識させ、活動中での自分の学習に対する姿勢や、友達とともに学んでいるときのやりとりを振り返らせ、より学習に主体的に取り組むことができるようにする。また、学習内容について振り返る中で、分かったことや、もっと調べたいことについて、全体の間でも共有し、振り返りから課題やヒントを見つけながら学習を進めていきたい。

概念的知識

私たちの身の回りには、たくさんの工業製品があり、日本、世界各地から運ばれる原料から製品を作り、日本中、世界中に運ばれている。工場で働く人々は、地域の特色を生かし、安全・衛生面に気をつけながら、効率よくたくさんの製品を生産し、人々から愛される商品を作るために工夫や努力を重ねている。

説明的知識

海田町には、いろいろな工場があり、たくさんの人がそれぞれの製品を効率よく工夫して作っている。

たくさんの人に安全でおいしいもみじ饅頭を食べてもらうために、衛生に気をつけ、試行錯誤を繰り返して新しい商品を開発している。

工場で使われる原料は、日本中、世界中から運ばれてきており、生産したものは、日本中、世界中に運ばれている。

記述的知識

海田町にはいろいろな工場があり、たくさんの人がそこで働き、私たちの生活に必要なものを作っている。①

工場で物を生産するには、一定の順序や工程があり、機械を使ったり、役割分担をしたりして、効率よくたくさんの物を生産している。⑥

安全なもみじ饅頭を作るために、工場で働く人は、服装・手洗い・温度管理に気をつけて働いている。⑦

にしき堂では、日々商品を改良したり、新商品を開発したりして、コラボ商品や、アレルギー対応の商品なども作っている。⑧

お客さんにより喜んでもらい、よりたくさん製品を買ってもらうために、工場で働く人々はそれぞれの役割を工夫して行っている。⑦⑧

もみじ饅頭の原料は国内各地から運ばれてきており、海田町では、日浦山の名水を使って餡が作られている。⑨

にしき堂の工場は広島駅のすぐ近くにあり、製品をすぐに配送できる場所にある。⑩

工場で作られたもみじ饅頭は、たくさんの人においしく食べてもらえるよう作られたその日に駅や販売店にトラックなどで運ばれている。⑩

用語

品
東洋シート
ワイ
テック
自動車部

工程
効率
役割
機械
生産

業
効率
機械
手作

商品開発
改良

製品

原料
国産

運送

地域の工業生産に関わる人々の仕事に関心を持ち、これらの仕事が自分たちの生活を支えていることや仕事に見られる特色、他地域などとの関わりについて、見学したり資料を活用したりすることを通して調べるとともに、工場の仕事に携わっている人々の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、表現することができる。

7 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
①地域の人々の生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ②地域の人々の生産の仕事と、自分たちの生活との関わりを考えようとしている。	①地域の人々の生産や販売の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ②地域の人々の生産の仕事の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。	①観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の生産の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことをグラフや白地図などにまとめている。	①地域の人々の生産に見られる仕事の特色や国内の他地域などとの関わりを理解している。

8 本単元において育成しようとする資質・能力

育成したい資質・能力	本単元の学習を通して目指す姿
主体性	にしき堂の生産の様子に興味を持ち、海田小もみじ饅頭工場に必要な情報を考え、整理しようとする主体性。
コミュニケーション能力	自分の考えを持ち、他者と交流することでよりよい考えがあることに気付くコミュニケーション能力。

9 指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時	学習内容	評価				
			関	思	技	知	(・) 評価規準 (評価方法) (★) 資質・能力の評価 (評価方法)
一次 (2) であう	1	課題の設定 ○海田町にある工場について知り、工場とはどのような場所か話し合う。 ○「海田小まんじゅう工場」では、どのように製品を作るか考え、にしき堂ではどのようにもみじ饅頭を作っているのか課題をもつ。		○			<ul style="list-style-type: none"> にしき堂の工場ではどのようにもみじ饅頭を生産しているのか関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 関① (ノート・発言) ★学習に興味を持ち、知りたいことや調べてみたいことなど、学習問題を自分たちで考えている。 主 (ノート・観察)
	2	情報の収集 ○「海田小まんじゅう工場」のアイデアを考えるために、調べたいことを考え、見学の計画を		○			<ul style="list-style-type: none"> にしき堂の工場の生産の様子について予想や見学の計画をたて、表現している。 思① (ノート・発言)

学習問題：にしき堂ではどうやってもみじ饅頭を作っているのだろう。

		立てる。				
二次 (8) 調べる・深める	3 4 5	○見学の観点（人の動き・機械・服装）に沿って見学する。			○	・観点に基づいてにしき堂の工場を見学し、生産の仕事の様子について必要な情報を集めている。 [技①]（見学のしおり・観察）
	6	整理 ○もみじ饅頭を作る人々がどのような工程でもみじ饅頭を作っているのか見学して気付いたことを整理する。			○	・工場で働く人々の仕事の特徴を理解している。 [知①]（ノート・発言）
	7	分析 ○安心して食べられるもみじ饅頭を生産するための工夫について考える。			○	・多くの人々に安心してもみじ饅頭を食べてもらうための工夫を考え、表現している。 [思②]（ノート・発言）
	8 本時	○商品開発について話し合い、よりおいしいもみじ饅頭を作るための努力や工場の人々の願いを考える。			○	・工場で働く人々の仕事の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。 [思②]（ノート・発言） ★自分の考えをもち、他者と交流することでよりよい考えがあることに気付いている。 [言①]（ノート・発表）
	9	○もみじ饅頭の原料がどこから運ばれているのか資料から読み取り、他地域との関わりを白地図に整理する。			○	・原料は国内外から工場に運ばれていることを白地図にまとめている。 [技②]（ノート・発言）
10	○もみじ饅頭が消費者の手元に届くまでの過程、運送についてまとめ、他地域とのかかわりを理解する。			○	・工場で作った製品は、どのように消費者の手元まで運ばれているのかを理解している。 [知①]（ノート・発言）	
三次 まとめ (2)	11	まとめ・創造・表現 ○単元を通して分かったことをまとめ、キャッチコピーを考える。 ○自分たちの考えた海田小もみじまんじゅう工場についてプレゼンテーションを行う。			○	・にしき堂の工場で働く人々の仕事を自分たちの生活と関連付けて適切に表現している。 [思②]（ワークシート・発表）
	12	振り返り これまでの学習を振り返り、身の回りにある工業製品も工場で作る人々の工夫や努力があることに気付く。			○	・地域の人々の生産の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。 [関②]（ノート・発言）
<p>★「深い学び」を実現した児童・生徒の具体</p> <p>・私達の身の回りにあるものはほとんどが工場で作られていることに初めて気付きました。工場で作られるものは、原料を日本中や世界中からもってきて、作ったものを日本中や世界中に運んでいることが分かり、今私が使っているものの原料はどこから来て、どこの工場で作られたのかなと思いました。</p> <p>・工場で働いている人たちは、よりお客さんに喜んでもらえる製品を作るために、日々試行錯誤を繰り返しておられることを知り、そのおかげでおいしいものを食べることができるのだと思いました。私達の生活がよりよくなっていっているのは、こうした努力があるからだと分かりました。</p>						

10 本時の学習

(1) 本時の目標

工場で働く人々は、よりよい商品を作り、多くの人に喜んでもらうために、日々商品の改良を重ねたり、新商品を開発したりするなど、たくさんの工夫や努力があることに気づき、自分の考えを表現することができる。

(2) 評価規準の観点

工場で働く人々が、日々商品の改良をしたり、新商品を開発したりするなどの工夫や努力をしていることと、自分たちの生活を関連付けて考え、適切に表現している。(ノート・発言)

(3) 準備物

写真・資料・ワークシート・掲示物

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点（・） ◆配慮を要する児童への支援	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
導入	1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人を買ってもらい、おいしく食べてもらい喜んでもらうためにさまざまな工夫があったことを想起させる。 	見通し【目指す子どもの姿】 ・にしき堂の人たちがどんなことを考えて商品開発をしているのか学習して、まねしたいな。
	2 自分たちが考えてきたアイデアの課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に考えた海田小まんじゅうについて他者の意見を聞き、課題があることに気付かせる。 ・にしき堂のもみじ饅頭は広島県のお土産ランキング1位であることを知らせ、本時のめあてにつなげる。 	
なぜにしき堂で開発した商品はたくさん売れているのだろう。			
展開	3 にしき堂の商品にはどのようなものがあり、どのような思いが込められているのか、資料から読み取る。 ○特徴 ○どんな人が喜んでくれるか ○新商品の開発をすると何か良いことがあるのだろうか。 ○買う人は、おいしいお菓子が食べられるとうれしいけど、売る人はどうだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生もみじ、すこやかもみじ、せとこまちを取り上げ、それぞれの商品の特徴を資料から読み取る。 ◆「せとこまち」の例を全員で考えることで、どのように考えればよいかモデルを示す。 ・それぞれの商品はどんな人が喜んでくれそうか考えさせ、様々なニーズに答えるために商品を作っていることに気付かせる。 ・作りたいものを作っているのではなく、お客さんの欲しいものを作っているということをおさえる。 ・買う側の視点と売る側の視点を示し、商品開発を重ねてより良い商品を作ることで、売る人にも買う人にも良いことがあることに気付かせる。 ・「すると」「たとえば」などのカードを示し、具体的な場で考えさせる。 	

まとめ	5 グループで海小まんじゅうのコンセプトについて話し合い、ワークシートに書く。	・学習した内容の中から、自分たちのグループで特に大切にしたいことについて話し合わせ、取り入れるようにさせる。	<p>★自分の考えをもち、他者と交流することでよりよい考えがあることに気付いている。 コ（ノート・発表）</p> <p>○ 工場で働く人々が、日々商品の改良をしたり、新商品を開発したりするなどの工夫や努力をしていることと、自分たちの生活を関連付けて考え、適切に表現している。 （ノート・発言）</p>
	<p>協働【目指す子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海田小学校のよいところをつたえる商品にしたいよね。 ・食べた人が笑顔になるようなものがないな。 ・海田小学校の人たちはどんなものを食べたいのかな。 		
	6 本時の学習のまとめを書く ☆お客さんによるこんでもらう ☆よりおいしい	<p>・本時の学習で出てきたキーワードを意識させ、児童の言葉をつないでまとめるようにする。</p> <p>◆板書でキーワードを示し、ヒントにさせる。</p>	
	<p>にしき堂の人たちは、お客さんを笑顔にするために、お客さんに喜んでもらえるようなよりおいしい製品を考え、商品開発をしているから、たくさん売れている。</p>		
7 本時の学習を振り返り、次時の学習を確かめる。	・グループでの活動の仕方や、学習して分かったことなどについて振り返りをさせる。		
<p>振り返り【目指す子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなものだけでなく、お客さんの欲しいものを作ることが分かった。 ・長い時間をかけて商品開発をしているから、自分たちがおいしいものを食べられることが分かった。 			

(5) 板書計画

